

# 小さないのちに ふれる授業

大山中3年生が赤ちゃん、  
お母さんと交流



赤ちゃんを抱く生徒。自分もこんなふうに母親に世話をされたんだ。自分が親になったら…と考えさせられることも



ミルクの飲ませ方を教わる生徒

赤ちゃん、お母さんとのふれあいをとおして、いのちの大切さと子育てについて学ぼうと、大山中学校で町内の赤ちゃん、お母さんを招いて家庭科の授業が行われました。

この授業は、県西部で活躍する子育て支援アドバイザー松本寿栄子さんの協力を得て、大山中学校、教育委員会が企画したものです。

授業には松本さん、町内在住の助産師 田中恵子さんのほか、町の保育士、保健師もスタッフとして参加しました。

生徒たちは交代で赤ちゃんをだっこし、お母さんに「赤ちゃんが泣くときはどんなとき？」などと質問をしていました。赤ちゃんを抱くのは初めてという生徒がほとんどで、最初はぎこ

ちない様子でしたが、かわいらしい仕草や表情につられ、自然に笑顔になっていました。なかには、お母さんに聞きながらオムツを替えたり、ミルクを飲ませた生徒もいました。

参加したお母さんからは、「中学生は赤ちゃんに興味がないのかと思っていました。こんなに優しく接してくれて、うれしかった」また、「暗いニュースがあるなか、中学生の優しさにふれ安心しました」という感想が聞かれました。

## 中学生の感想

・お母さんに「親バカだと思っ時は？」と聞くと、「自分の子が他の子より一番かわいいと思うときや、自分に似ているところを見つけたとき」と答えられたので、自分たちもそうやって愛されていたんだなあと嬉しく思いました。

・私も大人になって親になったとき、楽しんで子育てをしたいと思いました。そして、赤ちゃんを大事に育てていきたいと思いました。

# 父の日にバラの花を



町長に花かごを手渡す大原さん(右)

米子地区花き生産者協議会バラ部会は「父の日にバラの花を贈ろう」と、毎年、生産者が住む市町村へバラの花束と、花かごを贈ってPRしています。

6月13日(水)、町内でバラを生産されている大原広巳さん(所子)が、協議会を代表し、町長へバラを贈りました。

一年を通じて約40〜50万本のバラを生産されている大原さんは、「父の日に、日ごろの感謝を込め、バラの花を贈ってはどうでしょうか。バラを囲んで一家団らんを」と話されていました。大山町は県内の6割のバラを生産しているとのこと。「バラの町」としてPRできるのでは、と提案も。